発行日　2013年1月1日

日本福祉大学松本オフィス　第11号

松本オフィス通信

■学生奮戦記！　1
■2012信州＋（プラス）　2
■私の仕事－福祉大卒業生は今－
■みんなで戻ろう信州に!!　3
－キャリア相談会－
■トピックス
■奈良教育大学附属小学校　4
二人の作品展
■アート＆クラフト展　4
■高齢者写真展
■ＩＡＣ地区大会で講演会
■あなたの街の高校訪問　5
木曽青峰高校/上伊那農業高校
■2013年度入試情報　6
■インフォメーション　6

長野県出身の学生奮戦記！

就職先決定に至るまでに考えたこと

社会福祉学部　保健福祉学科
4年　大向　史洋

福祉分野に就職するにあたり、大学生活の4年間の様々なことを考え、悩み、ようやく今の進路決定-地域の社会福祉施設-をすることができました。

私が日本福祉大学に入学した理由は、福祉の世界に興味があるからという漠然としたものでした。そのため、両親の影響もあり公務員の福祉職や、社会福祉協議会への就職を3年生の夏までは考えていました。しかし、社会福祉士取得のための相談援助実習を経験し、高齢者施設の支援相談員もしくは、病院の医療ソーシャルワーカーとして働きたいと初めて自分の意思で決めることができました。ここから私の就職活動は始まったと思います。

何よりも〝現場〟へ

まず福祉分野の現場を知るにあたり重要であると考えたことは、実際に働いている人の話を聴くことと、施設や病院の中を見ることです。そこで1月から地元の施設・病院見学を始め、またそれと並行し、福祉業界だけを見ていては視野が狭くなると考え、一般企業の就職活動も何社か行いました。その二つを行うことで、福祉的な視点が企業の中にもあるということや、社会福祉に対する福祉分野以外の人の考えを知ることができました。

このように就職活動をしていると、見学の中で見るべき点や聞くべき点が分かるようになってきました。それぞれの施設や病院の良い点・悪い点を考え、それが自分自身のやりたいことや将来設計にどういった影響を及ぼすのかを様々な人とも相談し、今の就職先へと進むことを決めました。

就職先を決めるということは、一生に関わることであるため、今となっても本当にこの決断で良かったのか不安に思うこともありました。しかし、この決定に後悔することがないよう4月から働き、私の目指すソーシャルワーカーとなれるような努力をしていきたいと思います。

（松本蟻ヶ崎高校出身）

大向君は高校ではソフトテニス部。大学入学後は、チームスポーツをやってみたい、高校にはないスポーツを、とアメフト部に入部。プレーヤーとして活動してきましたが、一年生秋からはグランドプレーヤーを支えるチーム・スタッフに転身。今年の秋東海秋季リーグ戦まで務めてきました。かたわら、清沢ゼミでは3年生の時からゼミ長に。まさに文武両道の活躍。11月17日、長野県高校生バスツアーの美浜キャンパスガイドの一人でもありました。（左写真）

卒論は「介護老人保健施設における在宅復帰の現状と課題について」。佐久総合病院の老健と塩尻市内の二つの老健のデータをもとに書き上げたものです。

きっかけは、寄宿舎で生活する子どもたちとの関わりから

福祉経営学部　医療・福祉マネジメント学科
4年　桐生　大治

現在、福祉経営学部、医療・福祉マネジメント学科（通信教育）で学習を始め、4年目です。

入学のきっかけは、特別支援学校の中にある寄宿舎で生活する子どもたちとの関わりからでした。最初は目の前の支援で精一杯でした。慣れてきて周りが見え始めた頃、子どもたちや保護者の方たちから卒業後の生活の不安や悩みを聴くようになりました。私自身、もっと専門的な知識・技術・価値を身につけたいという思いから入学を決意しました。入学したものの、働きながらと学習との両立は思うよりも大変でした。

オンデマンド授業は、パソコンを目の前に聴き始め、気づくと寝ている日もあり、何度も聴き直し…（笑）1科目落としてしまったために相談援助実習の単位が足りず、行けなくなって落ち込んだこともありました。しかし、さらに学習を深めることができるという前向きな気持ちに切替え、2年目は資格科目以外のスクーリングにも参加し、おかげで3年目は、スクーリングで出会った方のお誘いで、地域学習会に参加しました。森林療法と地域再生と題し、富山県の自然に触れると共にたくさんの仲間とも出会い、今後の学習に向けてのエネルギーをもらうことができました。

相談援助実習の経験、精神保健福祉演習・実習を履修するための学内選考試験も挑戦し、合格することができ、そして4年目の今年、精神保健福祉援助実習で、7月下旬～8月下旬の24日間、南信地域活動支援センターへ行ってきました。たくさんの人たちと関わってきた中で、今までの経験、生活環境はそれぞれであり、そこから作られる価値観もそれぞれでした。振り返ることで、私の知っている私だけでなく、相手から見る私自身の姿を知ることができた有意義な24日間でした。

今後は、精神保健福祉士資格科目のスクーリングや課題、1月の国家試験、それに向けた学習を控えています。前向きな気持ちで一歩、一歩取り組んでいければと思っています。

「2012信州＋（プラス）」の取り組みすすむ

2012年度も、信州と学生生活をむすぶ取り組みが進んでいます。

高遠町では、夏休みを利用して、**経済学部**教職ゼミの3年生8人が、**高遠高校情報ビジネスコース**の高校生と同校で合宿を行い、共同して高遠町の「資源調査」を行いました。調査結果はその後、校内での議論や経済学部の鈴木健司准教授のアドバイスなどを経て、パワーポイントで58枚のシートとしてまとめられ、11月17日、美浜キャンパスで発表されました。

「大学の先生がまん前にいて、ドキドキが止まらん」、「スッゲー緊張する」などと言いながらも堂々とした発表に対し、取材に来た大学の広報スタッフも「オリジナルな調査データも含めてしっかりした報告で、水準が高い、と感じた」と評価を惜しみませんでした。教職ゼミの学生たちも「夏合宿のあと、校内でどれだけ真剣に議論したかと思うと脱帽です」と語っていて、教師を目指す学生たちにとっても、高校生の〝学び〟の一端に触れる貴重な体験となりました。

宮田村では、**国際福祉開発学部**の**千頭ゼミ**が、11月8－9日、中山間地域の内発的な発展の道をさぐるためのヒアリング活動を実施。対象は役場職員、果樹園主の方など。調査には村役場の総務課はじめ各課の支援があり、8日の夜には村づくりの基本となっている第5次総合計画の村民評価を進めている「村づくり委員会」の会議も傍聴し、自律の村づくりをすすめている〝現場〟にも立ち合いました。

また同村から提供いただいているリンゴの木オーナー権による**リンゴの収穫**が11月25日に行われました。詳しくは、http://www.n-fukushi.ac.jp/news/12/121127/12112701.html をご覧ください。

辰野町の取り組みでは、**経済学部と社会福祉学部合同の地域ゼミ(後藤ゼミ)**が、継続して辰野町横川地区を中心に活動をすすめています。今年は昨年から取り組んでいる「花街道プロジェクト」が中心ですが、同時に、自治区長さん初め地域のさまざまな方たちとの意見交換を重視してきました。

10月末に開かれた**辰野町紅葉まつり**にも参加し、企画案内・ソバ打ちコーナー、地酒コーナー(『夜明け前』という名前のお酒もありました！)などの支援を行いました。紅葉まつりでは、地域の方による大正琴の演奏があったり、川島小学校の人形劇があるなど、総合文化祭の様相もあり、それらを通じて地域に根ざした、住民参加の〝まちづくり〟、〝地域おこし〟の具体的な展開を学ぶことができました。(写真は川島小の子どもたち)

また地元の川島振興会の方たちとの交流の中から、高齢者が地域で果たしている大きな役割を知ることができ、また一方、これからの地域医療のあり方などについての課題や、農業の展望などたくさんの課題を抱えていることも実感することができました。

地域づくりに関するゼミは、これまで経済経営系の学生が中心でしたが、これに福祉系の学生の問題意識が加わることで、新たな地域の発見が展望できるようになりました。経済系と福祉系の学生のコラボレーションが、新たな学部教育の可能性を拓くものとして、注目されています。この企画については、大学の保護者組織「日本福祉大学後援会」からの助成を受けています。

詳しくは経済学部の学生がつくるブログで。
http://nfufukushikeiei.blog61.fc2.com/

「あなたの学生生活に信州を＋」、「信州にあなたの学生生活を＋」！

私の仕事 -福祉大卒業生は今-

社会福祉法人 サン・ビジョン
グレイスフル箕輪
地域マネージャー 宮澤 輝彦

日本福祉大学を卒業して、福祉の道で働き始めてから10年近くが経ちました。私の施設は、高齢者のための通所、入所の施設が併設された複合施設で、介護の入り口の方から人生の最期を迎える方まで総合的に支援しています。

今の私の仕事は、施設の管理者としてサービスの質を高めたり、次を担うスタッフを教育したりすることです。

福祉の世界も競争原理が働き始めていて、よいサービスができない施設は利用者様から選ばれません。でもそれって当然のことですよね。ですから、福祉施設であっても接遇研修をじっくり行いますし、もちろん、新しい介護技術の習得も大切なものとして考えています。

その中で、施設のサービスを新しくしていこうと、「若返り」をテーマに、他にはないサービスをスタッフのみんなと考えているところです。高齢者であってもいつまでも若々しく自分なりの生活を送りたいと考えておられるものです。

「ニーズの把握」、大学時代に何度も聞いた言葉ですが、やはり難しいものです。時には苦情として利用者様から厳しいご意見を頂くこともあります。ただ、新しい利用者様が自分たちの施設を選んで足を運んでくださったときや、何も分からず新人で入社してきたスタッフが、生活相談員として一人前に働いてく姿を見ながら、自分もまた一つ成長できたと感じています。

世間では、介護の世界が目立って、労働環境の悪さ、過酷さばかりが取り上げられています。実際この仕事を始めて続けているスタッフの声もぜひ聞いてほしいなと思います。

自分たちの施設で利用者様が元気になり、働くスタッフが活き活きと働く、そんな姿を皆さんのようなこれから福祉の世界を目指す学生、高校生の皆さんに見てもらえるような施設を作っていきたいと思います。

利用者の方と笑顔で会話をする宮澤さん。

①飯田高校出身
②社会福祉学部社会福祉学科卒

みんなで戻ろう 信州に!!

11月23日、美浜キャンパスでは、全国各県の同窓会員が集まり、各学部の3年生を対象とした同窓会キャリア相談会が行われました。

昨年の日本福祉大学全体の就職率は、卒業生に対して86％。全国の大学平均をかなり上回っていますが、故郷へのUターン就職は50％代。県全体の調査では、県外への進学者のUターン率は過去3年間でおよそ40％とみられるので、全国平均よりは高いのですが、学生の希望からすると課題がある状況です。これには社会福祉分野で職種によっては採用数が限定されたり、民間企業の場合は勤務地が全国に及ぶなどの制約があるのですが、学生の当初の希望は、やはり〝信州に帰りたい！〟のです。このため、Uターン実現をめざして大学と同窓会共同企画が毎年2回開かれています。

長野県も協力

秋のキャリア相談会企画では、まず長野県商工労働部労働雇用課六川貴子主任が、長野県としては学生のUターンを歓迎し、そのための支援を強めていること、今日もそのために来たと挨拶。続いて県内の雇用状況の最近の状況を説明しながら、厳しい経済状況のもとで進路を切り開くために、どのように情報収集をしていくか、ハローワークやジョブカフェの活用などをアドバイスされました。

（六川さんが用意された資料は松本オフィスにあります。）

続いて長野県出身のキャリア開発課職員の長田さんが、民間企業対策として、目標とすべき会社をどのように選んでいくかをしっかり考えることが大事で、〝有名企業〟に誰もが利用する〝就職情報サイト〟を頼ってエントリーするだけでは、結局選んでいるつもりが、流されるままになっていく、として、県内の特色ある企業を紹介しながら求職活動をどのように進めていくか、詳しく説明しました。

同窓会（先輩）を活用しよう

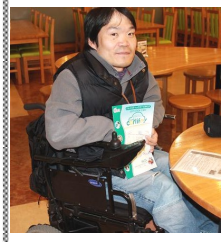
このあと、長野県同窓会から参加した山本雄二さんが社会福祉協議会や老人福祉をめざす学生に対して、杉田義夫さんが医療福祉分野、精神保健福祉士をめざす学生に、そして障害者福祉分野では村松功啓さんが相談に対応しました。地域的な事情や求人情報、具体的な準備などについて、山本会長は、ぜひ卒業生を〝活用〟してほしい、と呼びかけ、長野県同窓会が作成した、33名のキャリアアドバイザー名簿が紹介されました。（名簿希望者はこれも松本オフィスまで請求して下さい。）

また卒業生アドバイザーのほかに、今年の4年生内定者の中から、茅野市役所に内定した大坪君（諏訪双葉高校卒）、社会福祉法人に内定した大向君（松本蟻ヶ先高校卒）の二人の学生が、具体的な就職対策、自己アピールをどう書くか、面接対策はどうすればよいか、などをアドバイス。このほか、民間企業対策やこれから就職活動を始めようとする学生に対しては、六川さん、長田さん、そして松本オフィスの津田所長が対応。この日の3年生の参加者は60名。いよいよ就活がスタートしました。

トピックス

〝JOI STICK CAR〟への挑戦

「まい・すてっぷ」は、「まい・すてっぷ相談支援室」と「地域活動支援センターぴあ・ふれんず」をもっており、私は「ぴあ・ふれんず」の支援員をしています。身体に障害のある方を中心に、地域で暮らす、身体・知的・精神に障害のある方たちの交流の場、日中活動の場として、外出やレクリエーション、肢体不自由の当事者同士による情報交換の場の提供、パソコンや点字など学習、自分の趣味や簡単な料理などを楽しむ等を介して、その方にとっての次の一歩を踏み出して頂けるよう、その方にとっての「とまり木」的な拠りどころを目指しサポートしています。



私は障害当事者でもあります。先天性の関節部の骨形成不全があり、屋外では電動車いすを使用しています。現在、勤務と並行して長野県総合リハビリテーションセンターにて自動車運転訓練中です。国産のジョイスティック装置を取り付け、電動車いすのまま車に乗降でき、運転席に自力で移乗ができるように改造されたジョイスティックカーの持ち込みをさせていただいて運転免許取得に挑戦しています。この挑戦によって私自身のエンパワメントをもう一歩発揮させることになるよう、そして私と同じように社会的・制度的・物理的制約によって運転免許取得ができずにいた同じ境遇の方々のエンパワメントの発揮に貢献できればと思っています。

実は約10年、福祉の領域から離れたところに身を置いていました。久しぶりに感じる福祉の空気感に懐かしさを感じます。障害当事者として支援者として、以前と変わらず、様々な場面での繋ぎ役であれればと思っています。

社会福祉法人 信濃の星　エンパワメントセンター
「まい・すてっぷ」 支援員　新井　寛

松本で日本福祉大学セミナーが開かれました
ー今年は松本筑摩高校書道部作品もー

10月21日、松本駅前の東急インを会場に、大学セミナーが開かれました。毎年、社会福祉や経済など本学教員の多彩な研究テーマのうち、社会的関心を集めている問題を取り上げて開かれているものです。今年の記念講演は社会福祉学部山田壮志郎准教授による「現代における貧困の諸相」について。

そして今年、参加者の注目を集めたのが二つの企画でした。

一つは松本筑摩高校書道部の生徒作品。作者は、斧洞 尚也君、赤羽 竜也君、常田 幸志君、中澤 涼二君、橋本 ひさ子さん、平林 直哉君の6人。作品は手本をもとに書いていく「臨書」一点と、自由に表現する「創作」が五点。

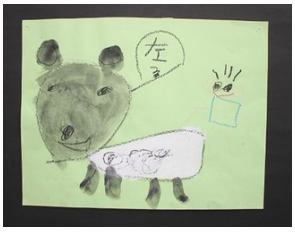
またもう一つは、卒業生が副施設長を務める松本市寿の知的障害者施設「コムハウス」の紹介。利用者の方たちが作ったクッキーの販売も行い、卒業生の施設職員が、施設のリーフレットをもとに施設の活動を紹介しました。保護者や市民の方たちに、活動の現場を示す取り組みは大いに注目されました。

特別支援学級の〝ずこう〟の時間－奈良教育大学附属小学校から－

10月～11月にかけて、美浜キャンパスでは、奈良教育大学附属小学校の第十九学級―特別支援学級－の西村元幹君と有川大和君、二人の作品の展示が行われました。発達障害やさまざまな特別なニーズを持つ子どもたちが、どのような体験を通じて、外部世界を認識し、広め、友達との関わりの中で成長し、発達を遂げていくか、二人の六年間はそのことを、絵画作品を通じて、私たちに示してくれました。とくに印象的だった作品を紙上で紹介します。

まず**大和君の2枚の遠足の絵**です。

（いちご狩り 2011年5月）



（めえめえ牧場 2010年5月）

左は5年生の春の遠足の絵です。イチゴが誇張して表現されていて、葉や蔓の描き込みなどにも大和君の関心の強さがうかがえます。大和君自身も大きく描かれ、腕の動作も明瞭です。足もとには基底線と思われる地面がしっかり描かれ、上部にはハウスも意識されていて、この日の行動の全体像がわかります。右は一年前、4年生の牧場の遠足では、最も関心を持った羊と自分が描かれています。大和君自身の関心が高かったことは本人の顔の表情からも分かりますが、手足や動作は描かれていませんでした。大和君はこの一年の間に、世界を認識する力、表現する力を急速に伸ばしたことを二つの絵は示しています。

もう一人、**元幹君の作品**。こちらは**学校行事、節分の絵**です。

（節分の豆まき 2010年2月）

（節分の豆まき2009年2月）

右は3年生、左は4年生の時の作品です。3年生の絵は、まだ「鬼」の存在がどういうものか、よくわからなかったのでしょう。鬼の表情は十分描かれていません。一年後、左の絵では、自分よりも大きい、鬼の存在を認め、怒りの表情がしっかりとらえられています。また手足の動作も一年前の線描きから、力強さへと変化しています。自分を相対化して描けるという力は、自分を含めた外の世界の認識が広がっていることを示しています。これらの絵が示すように、特別支援学級のなかでの教師の一貫した働きかけによって、子どもたちがさまざまな筋道で認識と表現を高めていることがわかります。

社会福祉施設のアート＆クラフト展

多くの人が行き交う場所で出会いを演出

「これ何でできているの？」「おもしろーい」「素敵な作品ですね」今年も2日間限定で、JR松本駅自由通路の一角が自由な展覧会場に変わりました。この展覧会の演出担当の、轟さん（松本市：コムハウス指導員）はこの作品カタログにこう書いています。

（詳細は別紙「速報」を）

自分のキモチをカタチにする

「人が自分のことを語る時、その伝達のための道具としてコトバがあります。しかし、そのコトバの表現を持たない人、コトバを発することができても上手に表現できなかったり、直接人と接することが苦手な人もいます。そういう人たちにとって自分を語るための道具の一つに、アートがあります。うれしいとき、かなしいとき、イライラしているとき…その時、その時の自分自身の心がカラダや指を伝わって線となり、絵の具のシミは自分のカラダが動いた軌跡となり、今を生きている自分自身のキモチのカタチがアートを通じて表現されているのではないでしょうか。

「描き出された自分」を伝える場所

作品に置き換えられた自分が、多くの人と出会える出会いの場が展覧会なのです。そのために、展示を担う者は作者と鑑賞者との出会いの場を演出し、一つひとつの作品をつなぎあわせ、一つの物語をつくる役割を担っています。また、展示と視覚的に語りかける物語は、それを組立てている一つ一つの作品をキラキラ輝かせ、鑑賞者の心に残せるような演出をしないと意味はありません。」（アート展カタログより）

〝「駅で素敵な作品と出会えたよ」と思ってもらえるように、今後も作者と鑑賞者とのキモチが触合える、そんな展覧会を今後も開催していきたい。〟と轟さんは語っています。

（写真右：轟さん）

美浜で高齢者写真展を開催

9月に茅野市美術館で開かれた第7回「寿齢讃歌」（高齢者写真展）の一部が、同美術館の協力により、美浜キャンパス12号館3階で開かれました。

〝お年寄りのパワーが伝わってくる〟〝見てると元気が湧いてくる〟など、学生から様々な声が寄せられています。

学内関係者の写真もあり、そのうちの一つは、加藤学長が出品した学園創立記念日の大沢前理事長・総長（現愛知県社会福祉協議会会長）のポートレートです。

茅野市での写真展には北海道から愛媛まで、全国から140点の作品が寄せられ、出品者数も最高になりました。図録が、大学付属図書館に、また長野県内の高校写真部・図書室にも送られる予定です。

インターアクトクラブ地区大会で児玉先生が講演

社会福祉学部児玉善郎教授が、七月松本第一高校を会場に開かれたインターアクトクラブ地区大会で記念講演を行いました。インターアクトクラブは、ロータリークラブが提唱した地域奉仕の活動を行うクラブ。

児玉先生の講演テーマは「東日本大震災被災地における住民による支え合いのまちづくり」。先生は、被災地を支援する復興のプログラムを紹介しながら、そこから自分たちの地域で、日常の生活の中でどう活かすかが大事だと強調しました。参加者は三〇〇名にのぼりました。

この他、今年は子ども発達学部の近藤直子先生、東内瑠里子先生が保育講座を伊那市、宮田村で行いました。

あなたの街の高校訪問

白玉かぼちゃきんとんのスイーツまで

ーハクビシンに負けない木曽青峰高校　森林環境科ー

県内屈指の伝統校で

木曽青峰高校には、旧木曾山林高校を引き継いだ森林環境科とインテリア科の二つの学科があります。

旧木曾山林高校の創始は、一九〇一年（明治三四年）の木曽郡立山林学校。つまり二〇世紀の幕明けとともにスタートした実業学校が前身なのです。一九〇六年には県立に移管し、山林経営のエキスパートを全国に送り出してきました。

戦後、新しい学校制度のもとで、〝農林〟という名前を冠した高校が全国に生まれましたが、〝山林〟という名を冠したのは木曾山林高校だけでした。

学校は二〇〇七年、木曽高校と統合するため、二〇〇九年を持って閉校となりましたが、その伝統はしっかりと受け継がれています。

伝統野菜を受け継ぐ

その一つ。長野県各地には地域ごとの特色ある野菜が「信州の伝統野菜」として六〇種類以上登録されていますが、森林環境科ではこのような地域の農業を受け継ぎ発展させるための取り組みを強めています。

今年は清内路、開田、羽淵きゅうり、清内路かぼちゃ、えごま等の生育実験が取り組まれました。

旧山林高校キャンパスの近くにある実習農場には、栽培時期、日照、水やりなどにさまざまな異なる条件設定のもとで、どの時期から、どのような条件のもとで栽培することが収量を最大にするか、などのデータが、農場の畝ごとに丁寧に記録されているのです。

ハクビシンにも負けず

それでも、いよいよ収穫間近になり、かぼちゃが外皮だけを残して中身がハクビシンに食べられてしまうことも。

無人になることもあるので、通電した電線を張っていても、巧妙にすり抜けるのだと聞きました。

こうした取り組みをもとに、九月十八日にはもともとの栽培農家である旧清内路村の農家の方たちが農場を見学に来られて、交流。ハクビシンにかなりやられ、「マジ？」「ウソ！」「えー！」という高校生の声が飛び交うなか、栽培記録をもとに熱心に意見交換が行われました。

農場での報告会のあと、この日は地元木曽福島町のスローフード研究会の方たちも加わって、伝統野菜の調理について〝実習〟を兼ねた昼食会が開かれ、伝えられてきたえごまダレの五平もちや〝白玉入りかぼちゃきんとん〟のスイーツまでさまざまな素材の料理の工夫が凝らされていて、高校生たちは地元の方にいろいろアドバイスを受けながら課題に取り組んでいました。

えごまダレの作り方を初めて知った高校生もあり、「若い人がきちんと話を聞いてくれて、教えがいがある」と伝授した今年八十二歳になる清内路の桜井さんも語られていました。

写真は、農場での交流風景と調理体験の風景です。

上農雑穀カレー　誕生

-上伊那農業高校-

「雑穀」とは、米や麦以外のすべての穀物を意味します。上伊那農業高校ではもともと、信州大農学部の支援を得て栽培をおこなっていましたが、8年前に長谷村を中心に起こった減肥料、減農薬の雑穀普及運動を皮切りとした「い～な（飯伊那）雑穀ネットワーク」に生徒たちの取り組みも合流。アマランサス、モチ黍、しこく稗、粟、ハト麦、ゴマ、エゴマ、蕎を重点的に扱うようになりました。

雑穀とカレー

2010年、長谷村のとりくみの中から生まれた「雑穀レストラン」に対して、〝雑穀〟というと、どうしても貧しいときの食材、というイメージが打ち破れない、日常的にも馴染みが薄い、そんな感想があるなかで、地域の八三歳の農家の方が、〝私だったら、カレーなら食べられるな…〟という一言がヒントになって、新製品の誕生に。カレーは、さまざまな香辛料を材料にしたカレー粉をもとに肉や野菜を加えてつくる料理ですが、今や日本の国民食となっているもの。確かにカレーなら…というわけで生徒たちはいろいろ試行をかさね、最終的にはインドカレーをベースに上農の畑で採れた玉ねぎとトマトを使い、とろみはなんとモチ黍が合うことを発見。

石巻北高校へ

そうしたなかで起こったのが3．11東日本大震災。校内では他の高校と同じように募金活動に取り組んできましたが、現地の様子が伝えられる中で、自分たちの作った雑穀カレーをぜひ届けたいと、模索が始まりました。避難所でも食べられる、輸送の問題もクリアーできる…その中で、「い～な雑穀ネットワーク」や地元企業の協力を得て、最終的にはJAながのが協力し、レトルトカレーが誕生したのです。

そして、総合高校で農業コースがあり、校内が避難所となっている石巻北高校に500食のカレーを届けることに。この活動には伊那市も農業振興にかかわる補助金を出して応援。生徒が現地に向かう時にはPTA会長も参加されました。上農の取り組みは、高校生・学校・保護者・地域・市・農協・という、幅広いネットワーク型で取り組まれたのです。

平成24年度農業クラブ全国大会で

こうした取り組みをうかがったのは上伊那農業高校の岩崎史先生。被災地支援にあたっては現地の産業復興が一番大事ではないか、それを生徒たちは学んできた、と岩崎先生は語られましたが、そのことを象徴したのが、十一月、長野県内各地を会場にひらかれた全国の農業高校の「農業クラブ」全国大会でした。

全国大会では上農レトルトカレーと石巻北のササニシキ、ひとめぼれの精米一五〇グラムのセットが販売されたのです。

こうした活動も含めて上農レトルト雑穀カレーは、合計で一七〇〇食を完売。地域に根ざした取り組みは被災地の人を励まし、そのことによって、上農の活動自身も一歩進めることにつながったのです。

2013年度 入試情報

■ 大学入試センター試験利用入学試験

	前期日程	後期日程
書類出願期間（消印有効）	《全学部出願型》2012年12月26日(水)～2013年1月18日(金) 《5教科・3教科・2教科》1月4日(金)～2月1日(金)	《2教科》2月18日(月)～3月4日(月)
合格発表	2月16日(土)	3月16日(土)

■ 一般入学試験

	前期日程	後期日程
書類出願期間（消印有効）	【郵送】1月4日(金)～25日(金) 【直接】1月26日(土)・27日(日)・28日(月)	【郵送】2月18日(月)～3月1日(金) 【直接】3月2日(土)・3日(日)・4日(月)
試験日	2月3日(日)・4日(月)5日(火)	3月9日(土)
合格発表	2月16日(土)	3月16日(土)

■ スポーツ推薦入学試験(一般・指定種目)・文化・芸術系部活動など推薦入学試験

	後期日程
出願期間（消印有効）	2月12日(火)～19日(火)
試験日	2月24日(日)
合格発表	3月1日(金)

県内で願書を受付ます！

持参割

今年も長野県内で願書受付会を開催します。
願書を手渡し＋面談で入学検定料が10,000円割引される出願方法「持参割」が対象になりますので、ご利用ください。

◆松本会場
期日：1月26日(土)・1月28日(月)
3月2日(土)
時間：26日・2日：13:00～16:00
28日：14:00～16:00
会場：日本福祉大学松本オフィス

◆長野会場
期日：1月27日(日)
時間：13:00～16:00
会場：長野市生涯学習センター 3F

当日は検定料は未入金のまま、出願書類等(記入済み/写真添付)をご持参ください。

※持参割は一般入試、大学入試センター試験利用入試の出願が対象となります。
※願書受付会詳細につきましては大学HPをご確認下さい。
※上記の日程で都合がつかない方、学校帰りに願書持参を希望される方は、出願期間中に随時オフィス窓口でも受付をします。面談日時の調整をしますので、事前にご連絡下さい。
12月29日(土)～1月3日(木)の期間はオフィス閉鎖となります。
※その他、ご不明な点は入学広報部(0569-87- 2212)までお問い合わせください。

願書持参+面談で 入学検定料 10,000円 割引

■ 入学試験の内容については、再度「入試ガイド2013」・「入学試験要項」で必ずご確認下さい。
■ 入学試験に関してのご質問は、入学広報部または松本オフィスまでお問い合わせ下さい。

information -インフォメーション-

日本福祉大学セミナーを開催　同時に就職相談会も！
保護者・在学生・同窓生、阿智村へ集合!!

大学後援会は、毎年県内で大学セミナーを開催しています。今年度は松本開催に続き、阿智村で長野県地域同窓会とタックを組み、セミナーと就職相談会を開催します。
当日は、山本秀人教授(日本福祉大学学長補佐)が学業をはじめ就職活動等に励む在学生の現状について講演を行い、同時に長野県地域同窓会は、就職相談会を開催し、就職活動のポイントやアドバイス、地域の情報等を発信していきます。本格的に就職活動を進める在学生のみならず、保護者の皆様からの相談にも応じます。多くの方のご参加、お待ちしています。

■開催日　2013年2月9日(土)　12:30～　受付開始
■会場　阿智村コミュニティ館 下伊那郡阿智村駒場
■アクセス　中央自動車道飯田山本ICから約4㌔(駐車場有)
■講演　『学生生活のいま-保護者の皆様へ-』
■講師　山本秀人氏(日本福祉大学学長補佐、学生支援機構長 等)

■詳細、参加申込につきましては大学後援会HPをご覧ください
http://www.netnfu.ne.jp/kouen/
■お問い合わせ先
日本福祉大学教育文化事業室(052-242-3045)または、日本福祉大学松本オフィスまで。

日本福祉大学 長野県地域同窓会より

長野県地域同窓会 総会・研究集会を開催します

平成24年度長野県地域同窓会総会・セミナーを下記の日程で開催します。今年も本学から社会福祉学部准教授の原田正樹先生をお迎えし、基調講演や毎年恒例の同窓生による実践報告会を実施します。
県内の各地域において、福祉、医療、保育等各現場で活躍をされている同窓生の話を聞ける絶好のチャンスとなります。
当日は、同窓生をはじめ、在学生や高校生、福祉関係の仕事に従事されている方、誰でも自由に参加できます。参加を希望される方は、松本オフィスまでご連絡ください。

■開催日　2013年3月24日(日)　12:00～受付開始
■会場　松本市総合社会福祉センター　(予定)
■アクセス　松本IC・塩尻北ICから約6㌔、南松本駅から徒歩5分
■講師　原田正樹氏(日本福祉大学学長補佐、社会福祉学部准教授)

詳細が決まり次第、松本オフィスブログに情報を掲載しますので、ご覧ください。

日本福祉大学　北信越センター松本オフィス
〒390-0815　長野県松本市深志1-1-24 中村不動産ﾋﾞﾙ3階
TEL (0263)31-9011 ／ FAX (0263)32-8018
E-mail　e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp
日本福祉大学HP
http://www.n-fukushi.ac.jp/
松本オフィスBlog
http://blog.n-fukushi.ac.jp/bc-matsumoto/